

平成十一年度	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
平成十二年度	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
平成十三年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（6，7，8）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
	1M工作実習1	前期：後期	火曜日（6，7，8）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
平成十四年度	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（2，3，4）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
平成十五年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H
	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（6，7，8）3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）3H
平成十六年度	3M総合実習	前期：後期	水曜日（6，7，8）3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）3H

3.5.6 SCS/MUPの活用状況

[1]整備状況

- ・SCSに関しては一部機器の故障に伴う修理を行った。また、録画装置を従来のVTRからHDD、DVDレコーダへ更新した。
- ・MUP事業は平成13年度に終了し、平成14年度から「高等教育IT活用推進事業」が5年計画で発足した。しかし、独立法人化に伴う、事業見直しのため、平成15年度で終了となった。

[2]利用状況

- ・平成15年度は56.5時間であり、平成14年度の46時間と比較して、利用状況の改善が見られた。SCSの平成15年度の利用実績の詳細は以下の通りである。

表3.5.3 SCSの平成15年度の利用実績

	回数	時間
講演会	9回	23.5時間
研究打ち合わせ	8回	16時間
会議	3回	9時間
その他	1回	8時間
合計	21回	56.5時間

[3]「高等教育IT活用推進事業」

高等教育IT活用推進事業の平成15年度活動報告を記す。

(1)平成15年度計画：

1:コンテンツ作成環境の整備

平成14年度明らかになった問題点を改善するために次のことを行う。

コンテンツ作成ワークフローの構築

コンテンツ作成のための講習会の開催

コンテンツ作成機材の充実

2:作成したコンテンツの授業への活用

平成15年度に作成したコンテンツを授業へ活用した結果をフィードバックし、より効果的なコンテンツのあり方を検討する。

3:授業計画の立案

平成15年度に平成17年度に行う授業の計画を立てる。

4:ネットワーク接続

平成15年度中にeラーニング配信サーバへの接続を完了する。

(2)平成15年度実施内容：

1:コンテンツ作成環境の整備及び作成したコンテンツの授業への活用

コンテンツ作成ワークフローの構築

本校ではパワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを用いた授業を行っている教官はいるが、その中で動画を用いている場合は皆無である。

そのために、動画撮影、編集、コンテンツ化のためのワークフローを長岡技術科学大学を参考にして、現在構築中である。

本年度4月より、生物応用化学科1年生の基礎化学実験の中で、いくつかのコンテンツを作成し、実際の授業で活用した。

その結果、学生・授業担当教官・コンテンツ作成者の意見をまとめると、次のような問題点があがってきた。

(1)ライティングが良くないため、暗い部分が生じており見にくい。特に、「ガラス細工」などの動きのある演示実験の際にその傾向がつよい。

(2)撮影が編集を意識したものになりきれていない。そのため、編集作業が予想以上にかかっている。

(3)全体の画面構成が良くないため、臨場感があまりなく、あまり興味を持てなかった。

(4)音がうまく拾えていなかった。

その他にも小さな問題点はいくつかある。本プロジェクトの他機関のコンテンツを参考にして上記の点の改良を検討した。

検討結果：

- ・専攻科AV教室が比較的防音性がよく、通常のコンテンツを作成するため部屋として利用する。

- ・撮影を容易にするために、講師、カメラ、ライトの位置を固定する。

- ・専攻科AV教室で撮影、編集ができる環境を整える。

- ・撮影用ビデオカメラ、ライトについては現在のものが利用できる。

- ・画面構成等については、他の機関のコンテンツを参照し、今後も検討する。

コンテンツ作成のための講習会の開催

本校教官が本プロジェクトのためのコンテンツを作成できるための講習会を平成

16年3月15日に実施し、好評であった。なお、本講習会は内容のレベルを上げて、平成16年度も引き続き実施する予定である。

コンテンツ作成機材の充実

上記で示したように、専攻科AV教室で編集を可能にするために動画を処理するためのPCを購入した。これによりひとつの部屋で撮影、編集が可能な体制が整備された。

2:作成したコンテンツの授業への活用

本校で撮影した動画コンテンツ、本プロジェクトの他機関のコンテンツを比較した。その結果、独自のものよりも他機関、特に長岡技術科学大学、北陸先端大学院大学のコンテンツが本校では好評であり、この形式を参考にして作成することにした。本プロジェクトのプラットフォームであるWebCTについて第二回WebCTユーザーカンファレンスに本校教官が参加し、WebCTの有効利用についての情報を収集した。

3:授業計画の立案

平成17年度から遠隔授業を最低1科目開講するための授業計画を本校専攻科教育委員会及び情報教育センターで立案した。

授業科目：微生物工学概論

担当教官：早瀬教官

3.5.7 学内LAN・インターネットの管理・運営体制

本校の学内LAN・インターネットの管理・運営は、平成15年度に発足した情報教育センターの一部門であるネットワーク運用管理部門で担当している。

ネットワーク運用管理部門の構成は、部門長、教員の委員2名、技官2名(平成15年度1名)で、インターネット(学術情報ネットワーク)への接続に関する事、学内のネットワーク機器の基幹部分の設定に関する事、学寮ネットワークに関する運用、本校トップページの技術的なこと等を行っている。

本校で現在稼働しているネットワークは、平成13年度末に整備されたギガビットネットワークで、校内の各棟を結ぶ基幹光ケーブルは二重化されており、通信速度は1Gbps、各棟内では100Mbpsのイーサネット、各部屋の情報コンセントに接続されている。

これらと同時に整備された学内サーバにおいては、1台のサーバの中に、各学科・部署のドメイン情報をWebブラウザを用いて設定できるようになったため、それ以前に行っていたような専門知識を持っていなくても運用可能なことから、各学科・部署のホームページ、メールアドレス登録、IPアドレスの管理については、広報・図書委員会からの依頼で各学科・部署より選出された担当者が行っている。

これらの担当者は、作成されたWebデータをサーバの各場所に設置する業務を行っていて、学校全体あるいは学科・部署のホームページや全体で考えるべき問題であるが、実際問題としては、サーバ担当者に、Webページのデザインの構成もふくめて全てを担当者に依頼するケースがあり、一部の担当者に非常に負担を強いていることが問題点として挙げられる。

学寮ネットワークに関しては、偶然にも、ネットワーク運用管理部門の委員が寮務委員と兼任しているため、学寮での学生集会等の時間を利用し、学寮ネットワークについて学生が遵守しなければならない事項についての説明会を開催し、また、女子寮の改修の際に既存の学寮ネットワークへの接続を行い、これまで運用ができていた状況である。しかし、今後もこれまでどおりの運用ができるとは限らず、別の問題点であるといえる。

昨今、コンピュータウイルスの問題が大きく取り上げられるようになっているが、本校の学内ネットワークとインターネットへの接続する部分に、ファイアウォールが設置されている。